

調査を実施した学生より



杉本 健介さん

徳島大学 理工学部 生態系管理工学研究室 4年

整備後、水を入れ始めて3~5か月目のビオトープにも、多くの種類の生きものがいて驚きました。ペットボトルトラップを仕掛けて生きものを捕獲したり、網で掬って生きものを捕獲したりと幼少時代に戻った気持ちになりました。

阿部 佑馬さん

徳島大学 理工学部 生態系管理工学研究室 4年

今回の調査で、ビオトープにて希少な生きものを確認することが出来ました。耕作放棄地のビオトープ化が持つメリットについて実際に体験するととてもいい機会になりました。ありがとうございました。



今後の調査の予定

今回、調査をしてみて、レンコン田は、コウノトリの餌として、在来種より、ウシガエルやアメリカザリガニなどの外来種が多いと感じました。今後は在来種と外来種との関係にも注目し、調査をしていきたいです。



コウノトリが生息する鳴門市の ビオトープとレンコン田の 生きもの



【お問い合わせ】



特定非営利活動法人
とくしまコウノトリ基金
Non-Profit Organization Tokushima Stork Fund

〒771-0203 徳島県板野郡北島町中村字岸ノ上 1-288
TEL.090-2825-6721 E-mail info@t-stork.jp
<https://www.t-stork.jp>

【助成】



トヨタ環境活動助成プログラム
TOYOTA Environmental Activities Grant Program

このリーフレットは、トヨタ自動車株式会社のトヨタ環境活動助成プログラムの助成を受けて作成しています。

鳴門市に生息するコウノトリは、レンコン田を主なエサ場として利用しています。しかし、レンコン田が耕作放棄地となることで、コウノトリがエサ場として利用できなくなるという問題があります。NPO法人とくしまコウノトリ基金では、耕作放棄地がコウノトリのエサ場として機能するよう、耕作放棄地をビオトープ（コウノトリがエサを取りやすいように、耕作放棄地を浅い水辺に戻すとともに、草刈りなどの管理を行う場所）にする取り組みを行っています。本リーフレットでは、ビオトープとレンコン田において、2021年に徳島大学理工学部生態系管理工学研究の学生の方々が、コウノトリのエサとなる生きものの種類や量などを比較するために実施した調査で確認された生きものを、簡単にご紹介しています。

調査期間 2021年7月上旬～9月上旬
調査方法 タモ網によるすくい採り、ペットボトルトラップで生き物を捕獲
場 所 鳴門市大麻町のビオトープ（2021年春整備）とコウノトリがよく飛来するレンコン田（2017年5月～2019年4月の間に7回以上飛来した記録があるレンコン田）

調査で確認された生きもの

※（希）・・・希少種（絶滅のおそれがある野生の生きもの）
 ※（外）・・・外来種（もともとその地域にいなかったのに、人間の活動によって他の地域から入ってきた生きもの）

ビオトープ



ビオトープでは、整備後、水を入れ始めて3～5か月目に関わらず、多くの種類が確認されました。その中には、希少種で徳島県内でも珍しい、コガタノゲンゴロウといった生きものも確認されています。



カダヤシ（外）



ギンブナ



ギンヤンマ(幼虫)



コイ（外）



スクミリンゴガイ（外）



コガタノゲンゴロウ(幼虫・希)

共通で確認できた生きもの



ミナミダカ(希)



ヌマエビのなかま



ヒメガムシ



ヌマガエル



アメリカザリガニ(外)



コシマゲンゴロウ



シオカラトンボ(幼虫)



オタマジャクシ(ウシガエルなど)



ウマビル



アオモンイトンボ(幼虫)

レンコン田



レンコン田では、ビオトープより確認された生きもの種類は少なかったですが、カエルやアメリカザリガニは、ビオトープに比べ、量が多く確認されました。



ウシガエル（外）